

わが子になりたいものが
親の“知らない職業”だったら!?

どう目指した?
なるまで
ヒストリー
付き

高校生の 人気職種カタログ

取材・文／長島佳子 撮影／守谷美峰

この先、迷いや心配を乗り越え、将来の進路を選択していくわが子。
岐路に立ったとき、支えや話し相手になってあげられるよう、
世の中のさまざまな仕事について、理解を深めておきませんか?
ここでは、今の高校生に人気の職種で実際に活躍している10人の社会人を紹介します。



スマートフォン

01. Webディレクター



コンテ用紙

02. 編集者



ペンとノート

03. 国際機関職員



三角スケール

04. 建築士



デバイス

05. 宇宙航空研究者



電気自動車

06. 公務員



10年カレンダー

07. 国際会議場営業



カルテ辞典

08. 薬剤師



電卓

09. 管理栄養士



角度計

10. 理学療法士

写真は各職種で活躍する人の必需品です。

数年後にはWebディレクターという職種がないかもしれない
ほど、技術やサービスの進歩が速い業界。新しくおもしろ
いものを追いかける好奇心を、人一倍大切に！



打ち合せや会議のとき以外は基本的にパソコン作業がほとんど。移動中もスマートフォンで情報収集しています。海外のクライアントを担当しているため、出張も多いです。



クライアントへの営業、デザイン、プログラミング、いろいろな工程がチーム単位で進行していくため、それらを統括する自分の役目は重要になります。

意志が固まる

意志の芽生え

▼ **なつてみて今**
IT業界のスピード競争に勝つには、技術や感度だけでなく、戦略を立てる力が必要と痛感。

▼ **就職活動**
美術館の学芸員も考えたが、やりたいのはその立場の仕事ではなかった。美術館と関係が深い企業を探した。今の会社が美術情報サイトをやっていてため選んだ。

▼ **大学時代**
美術部という曖昧な情報の提供の仕方についてさらに深掘りするため、筑波大学大学院芸術研究科デザイン専攻に入学。

▼ **大学時代**
九州芸術工科大学芸術情報設計学科入学。新設学科で自由に学ぶことができた。卒論のテーマは「美術展示における情報支援について」。

▼ **進路選択のポイント**
「北海道から九州に行きたい」が進路選択の動機。進学情報誌で「九州芸術工科大学（現・九州大学芸術工学部）」を発見。学校名が気に入った。受験科目が物理・数学・デザインと得意科目はあったのでそこに決めた。

▼ **高校時代**
美術部に所属する傍らバンド活動も継続。人が知らないものをいち早く取り入れるのが好きで、ネットで探した誰も知らない洋楽をやっていた。

▼ **中学時代**
小学校5年生から中学2年までアメリカ育ち。帰国子女として茨城の中高貴校に入学。父が物理学者であつたため、人より早くインターネットの存在を知る。洋楽のコピーバンドをやっており、アメリカのサイトで楽譜を探していた。

なるまでヒストリー

最先端のITの技術と知識が常に要求される
インターネットのホームページを、クライアントの要望どおりに制作・運営するために大勢の制作スタッフを統括・監督する仕事。ITの最先端の技術のほか、クライアントやスタッフとのコミュニケーション能力も要求される。

ツフとのコミュニケーション能力も要求される。
和気さんは大手企業のホームページや情報サイトのほか、自社と親会社（大日本印刷）がフランスのルーヴル美術館と共同研究している展示プロジェクトも担当している。

編集者には広い知識とものの見方が必要。高校時代は部活を頑張つて上下関係を学んだり、大学時代はたくさん旅行して異文化に触れるなど、視野を広げておくといいですね。



編集部は基本的に雑然としています（笑）。本誌のバックナンバーや、レイアウト用紙や写真の出力紙、校正紙などがそれぞれのデスクに積み上げられている感じ。



企画は会議で編集部員全員で出合います。進行中は社外のスタッフとのかかわりが主ですが、写真の仕上がりなどについては先輩からアドバイスを受けます。



最新のファッション事情を真っ先に知ることができるのがこの仕事の醍醐味です。撮影後にレイアウトを考えているときが一番楽しい。撮影も楽しいですが、自分よりずっとベテランのスタッフも多く、全体を段取りよく進めるためには多方面への気配りが必要です。

意志が固まる

意志の芽生え

▼ **なつたとき**
「子どものころからのあこがれの仕事に就けてホッとした」

▼ **就職試験**
出版社は狭き門のため、ほかの業種も受けることを考えて就活にあたり、全般的な勉強をした。ただし、出版社の筆記試験は特殊と先輩から聞いていたので、準備はしていた。

▼ **大学時代**
早稲田大学教育学部社会学科社会科学研究科。マスコミ研究会に所属し、フリーペーパーを作った。1年生のときから2年半、出版社のファッション雑誌編集部でアルバイトを経験。編集は残業も多く、体力のいる仕事と知る。

▼ **進路選択のポイント**
マスコミに入るには広い視野が必要と考え、いろいろなことが学べる社会学科系を目指す。

▼ **高校時代**
中高貴の私立に入学。このころは考古学者やインテリアデザイナーにあこがれたこともあったが、本気ではなかったかも。

▼ **中学校低学年**
家族全員漫画好きで、漫画喫茶が開けるのでは？と思うほどの家庭だった。絵心がないため漫画家は断念するが、誰よりも早く原作を見られるコミックの編集者になりたいと考える。

▼ **小学校高学年**
ファッション誌の存在を知り、その編集者になリたくなる。

なるまでヒストリー

企画、制作、調整役と多岐にわたる仕事を担当
編集者は雑誌や書籍を作る仕事。企画を立てたり、記事に必要な材料を集めたり、カメラマンやライターなどのスタッフの手配をしたりと、多岐にわたる。出版社や編集プロ

ダクションに所属するほか、フリーという形態もある。
加藤さんは入社以来、月刊ファッション誌『CanCam』を担当。発行の3カ月前から企画がスタートするため、常時3号分が動いている。毎号5〜18ページ受け持つそう。

知識は身を助けます。異国の人と仕事するとき、ふとした話題で打ち解けられることがあるもの。外国語の習得に力を入れるほか、世の中の何にでも興味をもつことも大事です。



難民が発生する世界の紛争地が仕事場。国同士の戦争・紛争だけでなく、国内の内政事情で難民化する人が増えているのが現在の深刻な問題です。



セルビアの帰還避難民の方々とコンボにて。故郷に帰ることができて、皆さんに笑顔が戻ることが、この仕事をしなくて何より願ってやまないことです。



難民の方々は家族にも言えない悩みを抱えていて、その思いを私たちに話してくれるとき、UNHCRの職員が信頼されていると感じられます。数年ごとに赴任地が変わるため、よほど計画的に準備しないと婚期は遅れますね(笑)。

意志が固まる

職種発見

意志の芽生え

▼ **小学校低学年**
小学校から高校まで一貫校に入学。

▼ **中学時代**
合唱部に入る(高校まで)。部活以外でも音楽を習うほど、6年間力を注いでいた。

▼ **高校時代**
コースで東欧の民族紛争や南米の民主化を見て、世界史が動いていることを実感。難民と難民を守る人権活動家の存在を知り、興味をもつ。

▼ **大学時代**
早稲田大学政治経済学部政治学科に入学。このころ「紛争をきっかけにUNHCRの存在を知る。大学1・2年のとき、同時通訳者養成の初級コースに通い、英語を身につける。

▼ **カナダ留学時代(大学3年)**
交換留学でトロント大学に留学。旧ユーゴや中国からの難民や、諸事情により故国から逃れた人々を目の当たりにし、UNHCRの職員を目指す。

▼ **大学院時代**
早稲田大学を卒業後、アメリカの大学院に入学。国際法を専攻。

▼ **就職活動**
大学院在学中に、JPOの試験に合格。

▼ **なったとき**
試験に合格した10カ月後にUNHCRから赴任の辞令。トルコ事務所に配属。

なるまでヒストリー

*JPO(Junior Professional Officer)とは、各国政府が費用を負担して、国際機関職員をめざす35歳以下の若者に職務経歴を提供するもので、任期終了後に正規職員としての道が開ける制度。日本では、外務省国際機関人事センターがこの事業を実施している。

私は高校時代はよく遊んで、いろいろな人とつきあい、その人たちに節目節目で助けられてきました。人と出会いは視野を広げてくれます。いっぱい遊んでおきましょう!



あがってきたCGパースを修正中。設計図は今はパソコンで作成することがほとんど。コーヒーを飲むと仕事ははかどるので1日20杯も飲んでしまいます。



建築は社内外のさまざまなプロフェッショナルとのチームプレー。だからチームメンバーのマネジメントも広い意味で建築に含まれていると思っています。



何も無い状態から自分たちが設計したモノが段々と形になって姿を現していき、完成したときの喜びは中毒のようにやみつきになる喜びです。今はプロジェクトをまとめる立場になり、建築設計以外の仕事もあるため忙しくなりましたが、それも楽しんでいます。

意志が固まる

職種発見

▼ **独立**
個人事務所を設立。住宅関係の設計に携わる。個人事務所の仕事のかたわら、現在の会社でアルバイトをしているうちに、正社員として入社。

▼ **大学時代**
日本大学工学部建築学科に入学。一級建築士の資格取得を目指し勉強に励む。

▼ **就職活動**
一級建築士の資格は大学卒業後の実務経験が必要だったため、まずアトリエ建築科の工房に就職。

▼ **アトリエ時代**
設計の仕事に携わる一方、資格の勉強。先輩から「試験は発で取れ、一度落ちると癖になる」と言われ、どんなに多忙でも毎日3時間必ず勉強し、当時の資格規定で最短の3年後に合格。

▼ **受験に際して**
急に勉強を始めたなら、先生方が全面的に協力。科目ごとの教員室に週に1回ずつ勉強した。担任の先生が設定してくれた目標校に向けて猛勉強。遊び仲間の赤点対策講座を開くまでになった。

▼ **進路選択のポイント**
学部選択に迷ったとき、昔から家に図面や模型があり、母親が建築関係の仕事だと初めて気づく。必要な資格や仕事について多々聞いてみた。

▼ **高校時代**
級友だけでなく幅広い人たちと遊んでばかりで3年生になっても進路調査票は未提出。父の知人からかわいがってもらっていたバーのマスターから、「大学に行ってから人生を考えるのいい」と言われ、進学を考える始める。

なるまでヒストリー

実務経験があれば
大卒以外も取得可能

二級など扱える建築物の種類規模によつて5種類。
一級建築士の北川さんは駅や駅ビル、商業施設などを手掛ける会社で、現在「ルミネ」全店の新築・リニューアルや、ゴルフ場のクラブハウスなどの設計を担当している。

03

国際機関職員

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
セルビア事務所 主席保護官
白戸純さん (39歳)

世界各地で難民の保護、支援活動などに従事
国連やその下部組織等に勤務し、国際社会共通の利益のために世界各地で働く国際機関職員。職種は、主に専門的知識や技術を生かす「専門職」と一般事務等を行う「一般職」の2種類がある。

白戸さんは、自国の事情によつて国を出ることを余儀なくされてしまった人々(難民)を保護し、問題解決のための活動を行っている。今までにトルコを始め、ルワンダ、コンゴなど10地域を担当。

04

建築士

株式会社ジェイアール東日本建築設計事務所
設計本部 一級建築士
北川力造さん (36歳)

実務経験があれば
大卒以外も取得可能

建築士は国家資格を取得して設計、施工などの業務に携わる仕事。資格は独学で取得することもできるが、その場合一定期間の実務経験が必要となる。建築士には一級・二級など扱える建築物の種類規模によつて5種類。

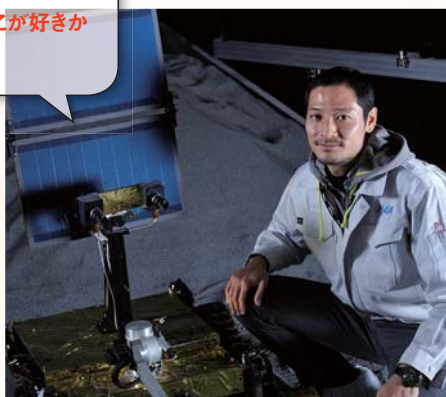
何かを好きでやりたいという**情熱はとても大事**。それをかなえるためには、親や先生の力を借りながら「**なぜ、どこが好きか？**」を掘り下げることがもっと大切です。



月面上は非常に細かい砂に覆われています。そのような地盤でも確実に走るためのローバー（小型無人車）の車輪を開発、走行性能の評価実験を行っています。



ローバーの実験をする際は、通信や電池、構造など他の分野の研究者の方々と一緒に、それぞれが担当するパーツに問題がないかを確認します。



好きなことを仕事にできていること自体が幸運ですが、実験を繰り返してもうまくいかないときは自分の力不足を痛感。それでもチャンスや手段は1つではないので、何度も違う方法で挑戦してきたことが、多くのことを学べたきっかけになりました。

意志が**固まる**

意志が**醸成**

意志の**芽生え**

なるまでヒストリー

▽ **就職活動**
誘導制御技術を学び、それを人の生活に役立てるシステムを他分野の人たちと作りあげた経歴を評価され、JAXAに合格。

▽ **大学時代**
慶應義塾大学大学院理工学研究科解放環境科学専攻。生活への機械の役立て方に関心を持ち始める。極限環境である宇宙に適用する人工衛星やロボットの開発、運用を志す。また、宇宙大学コンソーシアム(UNISSEC)の活動に参加し米ネバダで模擬宇宙プロジェクトを経験。

▽ **大学時代**
慶應義塾大学理工学部機械工学科入学。複数の要素技術から成り立つシステムである宇宙ロボットの研究開発に携われたことが現在の研究に役立っている。

▽ **進路選択のポイント**
理系のなかでも宇宙機・飛行機・鉄道・自動車など乗り物系を作る工学系に意志が固まる。

▽ **高校時代**
県立高校の理数科に入学当時は、まわりの友人同様、医学部・薬学部・農学部などにも興味があった。そんなとき若田光さんが宇宙でロボットアームの操作をしたことが衝撃を受ける。

▽ **中学時代**
毛利衛さんが宇宙でさまざまな実験を行ったことを知り、宇宙関係の仕事に興味をもつ。

▽ **幼少時代**
山梨県清里高原でペンションを経営する実家で育つ。自分には当たり前の満天の星に、都会から来る人たちが感動するのを見て、宇宙は人をすてきな気持ちにさせる存在だと思った。

公務員は**多様な職務に就く可能性**がある公職。仕事に思い入れはありますが、自分のこだわりよりも**県民の想いを優先**させることが第一。何でも楽しめる人が向いています。



電気自動車の普及にかかわることすべてが業務。予算は県民の税金のため、PRのための広報物もパソコンを使って自分たちで作成するなど業務は多岐にわたります。



乗用車からスタートした電気自動車プロジェクトは、今は二輪、バス、タクシーなどへ対象を拡大しています。グループのチーム員でそれぞれ担当しています。



電気自動車には最先端の技術が使われており、メーカーさんの開発現場を見られたり、最前線の方々のお話を聞けるなど、県の職員ならではの経験ができます。前例のない仕事で役所外の関係者の数も多く、全員が手探りという苦労もあります。

意志が**固まる**

なるまでヒストリー

▽ **就職試験**
美術は大学時代も好きだったが、職業にするつもりはなく、美術的センスを活かせる広報などの仕事ができたいと思っていた。「これしかやりたくない」という強いものがなく、公共性のある仕事に興味があったため、公務員ならいろいろなことができようと思志す。叔父に具体的な話を聞いて、目指す覚悟が決まり勉強を始める。

▽ **大学時代**
早稲田大学法学部に入。1年生のときに法学のサークルに入るが、法曹界は自分にはあわないと感じ、2年生以降は帰国子女が集まる英会話サークルに変える。

▽ **大学時代**
美術は大学時代も好きだったが、職業にするつもりはなく、美術的センスを活かせる広報などの仕事ができたいと思っていた。「これしかやりたくない」という強いものがなく、公共性のある仕事に興味があったため、公務員ならいろいろなことができようと思志す。叔父に具体的な話を聞いて、目指す覚悟が決まり勉強を始める。

▽ **大学時代**
早稲田大学法学部に入。1年生のときに法学のサークルに入るが、法曹界は自分にはあわないと感じ、2年生以降は帰国子女が集まる英会話サークルに変える。

▽ **大学時代**
早稲田大学法学部に入。1年生のときに法学のサークルに入るが、法曹界は自分にはあわないと感じ、2年生以降は帰国子女が集まる英会話サークルに変える。

▽ **大学時代**
早稲田大学法学部に入。1年生のときに法学のサークルに入るが、法曹界は自分にはあわないと感じ、2年生以降は帰国子女が集まる英会話サークルに変える。

▽ **大学時代**
早稲田大学法学部に入。1年生のときに法学のサークルに入るが、法曹界は自分にはあわないと感じ、2年生以降は帰国子女が集まる英会話サークルに変える。

国や地方で資格を取り、市民のために働く仕事。国、または地方公共団体に所属し、その職務を行うのが公務員。政府や独立行政法人に勤める国家公務員と、地方公共団体に勤める地方公務員のほか、国際機関に所属する国際公務員もある。神奈川県庁勤務の國安さんは、現在環境対策を推進する部署に所属し、県内に電気自動車を普及させるために、広報物の作成やイベントの開催、補助金や充電設備の整備などの業務を行っている。

05

研究者

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 月・惑星探査プログラムグループ 研究開発室 成田伸一郎さん(31歳)

専門分野を掘り下げて論文や実用化に貢献

研究者はさまざまな分野に存在し、専門分野についての知識を集め、実験や調査などを通して真理を明らかにする仕事。大学院などでは論文発表で学術を究め、企業や団体で

は実用化に向けて形を作る。成田さんは宇宙機を思い通りに動かす航法誘導制御系を専門分野として、金星探査機「あかつき」や、計画中の月探査機「SELENE-2」、小惑星探査機「はやぶさ2」にかかわる研究開発に従事している。

06

公務員

神奈川県 環境農政局環境部交通環境課 國安紗央子さん(32歳)

国や地方で資格を取り、市民のために働く仕事

国、または地方公共団体に所属し、その職務を行うのが公務員。政府や独立行政法人に勤める国家公務員と、地方公共団体に勤める地方公務員のほか、国際機関に所属する国際公務員もある。

自分がやりたいと思ったことは、人に頼る前に**まずは自分の力で調べて**、主体的に実現させることが大事だと思います。
小さなことでもその経験が**必ず後で生きてきます**。



会議利用を予定のお客さまに施設をご案内。パシフィコ横浜は会議場、展示場、ホールを備えた複合施設であるとともに、海に面したロケーションもセールスポイントです。



会議のお客さまの宿泊先として、隣接するヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルの担当の方と、協力しあって営業することもあります。



世界中の方が集まる会議は国賓クラスのVIPのご来館があったり、不測の事態が発生したり、緊張が絶えない仕事です。それでもお客さまに「ありがとう」と声をかけられ、参加者の方々に笑顔をいただけたときの達成感は何物にも代え難いです。

意志が**固まる**

意志が**醸成**

海外への**興味**

▼ **なつてみて今**
思っていたよりずっと多くの職種の人がかかわり、工程が多い仕事だとわかった。イベントは毎回内容、段取りが異なり、お客さまにとっては1度きりの大舞台で失敗は許されません。不測の事態には培った経験で対応するしかない。
国際会議はオリンピックの誘致のような国対国の競争。開催の5〜6年前に予定が決まるため、10年先のカレンダーを常に携帯している。また、自社の施設はもちろん、いかに横浜や日本が魅力的かをプレゼンする必要がある。そのためには自国だけでなく他国に関する知識・情報など、幅広い勉強が必要と日々感じている。

▼ **就職活動**
サービス業全般に興味があり、幅広く企業研究した中で、国際会場がおもしろそうだと感じた。

▼ **大学時代**
横浜市立大学国際文化学部入学。1年終了後、休学してアメリカの大学に留学。コミュニケーション論を学ぶ。当時は留学生の就職事情がよくなかったため帰国。その後、横須賀の米軍ベースでアルバイトをして語学に磨きをかけた。
大学がある街で行われていた芸術祭で、ボランティアスタッフをした経験で、人がたくさん集まるイベント業に興味を深める。

▼ **高校時代**
市立高校入学。語学が好きで、中学のころからバスケット部に所属し、将来は海外でスポーツ関係の仕事がしたいと思っていた。1年生から通っていた塾の先生に、英語の個人レッスンを自ら願って習い始める。
国際関係のことを学んで、世界を広く知る学部を探した。

なるまでヒストリー

無形のサービス
魅力的に見せる仕事
営業職は自社の製品やサービスを顧客に販売する職業。会議場や展示場、ホテルなどのサービス業においては、施設だけでなくホスピタリティという無形のものを商品とする仕事である。

武澤さんの業務は国際会議を中心とする催事の予約管理と誘致。国際会議の誘致は自社だけでなく、日本のアピールにもかかわること、横浜市や政府の観光局と協働することも少なくないという。

受験勉強は出遅れたものの、好きな部活を全うできた**高校時代は充実していました**。勉強も好きな化学で苦手科目分を挽回できたので、**好きなことに全力を尽くすことが大切です**。



社内にいるよりも病院を訪ねている時間が長いかもしれません。薬剤師でも人と接する仕事が多かったため、外に出る機会が多い今の仕事を選びました。



臨床開発は全国の病院を回るためチームで動きます。2年前からチームリーダーを務めており、部下の相談を受けたり指導することも業務に含まれています。



臨床試験に同意してくださった患者さんが、その医薬品の効果を実感して「もっと使いたい」と言ってくださったときがうれしいですね。大変なのは、薬だけでなく医学についても知識を深めないと、ドクターたちの信頼を得られないことです。

職種発見

意志の芽生え

▼ **なつてみて今**
1つの案件で全国を回るため、出張が多い仕事。いろいろなところに行けて、大勢の人とかわれることが自分に合っていて楽しんでいる。

▼ **就職活動**
大学の就職セミナーで臨床開発の仕事を知る。しかし、ネットの情報で開発の仕事は大学院卒者の採用がほとんどと気づく。大学院の進修は考えておらず迷っていたときに、会社説明会でCROのことを知り、大学卒でも臨床開発に携われることがわかり志望した。

▼ **大学時代**
東邦大学薬学部入学。当初は大学病院勤務や調剤の仕事も考えたが、実習研修で、人と接することが好きな自分には向いていないと悟る。

▼ **高校時代**
実家が電気関係の自営のため、高校入学時は物理系に進もうと思っていた。2年生の化学の時間に「アセチルサリチル酸」の構造式を先生が黒板に書いて、それが馴染みのある頭痛薬の成分のことだと教えてくれたときに、急激に化学に対する興味が高まり、薬学部を志すことになった。
親から「薬学部は費用がかかるから浪人だけはするな」と言われていたため、公募推薦で2校併願できるスケジュールの学校を選ぶ。

なるまでヒストリー

大学の薬学部卒が条件
活躍の場はさまざま
薬剤師は国家資格で、資格取得には大学の薬学部の正規課程の卒業が条件。病院や薬局での調剤、製薬会社などでの研究・開発、医薬品会社の販売などで活躍している。

山之内さんはCRO（医薬品開発支援）という、製薬会社が開発した医薬品の効果を確認する臨床試験を、製薬会社に代わって行う業務。病院でドクターと患者さんに使ってもらった医薬品のデータを集め、報告書を作成している。

趣味、遊び、部活など、どんなことでも「これが好き」「これはやり遂げた!」といえるものがあると、進路選択の際に**自信がもてます**。いろいろなことに挑戦してみてください!



社内外のスタッフ間の情報共有に、商品開発のデータ資料を作成するのも大事な仕事。研究室以外にも工場や売場にも足を運んでいます。



商品開発は原料の産地の方から工場の方、社内のマーケティングや営業担当など大勢の人とかかわります。今日は賞味期限の測定実験をする部下の指導中。



自分が開発した商品を店頭で手にしているお客さまを見たときの喜びはひとしお。商品は理想だけでは作れず、価格や原料の確保などハードルがたくさんあり、社内の他部署の人たちと納得がいくまで話し合うこともあります。その関係も含めて充実しています。

意志が固まる 職種発見

大学付属高校だったから、そのまま進学する人間関係が広がらないと思い、外部受験を志望。両親とも薬剤師だったため、なんとなく薬学部ばかり受けたが、現役では全部落ちてしまった。

浪人時代

自分がやりたいことを見つめ直し、好きなことは「食」をやること、お菓子を作ることに気づき、進路を変更。父から管理栄養士の存在を教えられる。

大学院時代

東京農業大学・応用生物科学部 栄養科学科 管理栄養士専攻に入学。健康管理の仕事は自分に不向きと感じ、同じ食なら「おいしさ」のために仕事をしたいと、食品会社への志望を固める。

就職活動

今の会社は父から聞いて知り応募。大学卒業後に受ける管理栄養士国家試験合格が前提だったので、受験勉強との両立が大変だった。

なってみて今

好きな「食」と多様な人々とかかわるものを開発できて、願ってもない職場だと感じている。

なるまでヒストリー

栄養指導の仕事のほか製造現場でも活躍
管理栄養士は国家資格を取得して、病院・介護施設・学校・その他の機関などで栄養指導などの業務に携わる。食品会社などの研究開発で活躍する人も多い。管理栄養士

になるには、先に栄養士の資格取得が必要。
中澤さんは育児や介護にかかわる食品や衛生用品のメーカーで、ベビーフードから高齢者用の介護食の研究開発をしている。現在は赤ちゃん用のお菓子の開発を担当。

自分の存在はまわりの人々のおかげ。そして、どんな仕事でも**コミュニケーション能力**が必ず必要で、それを養うには、自分の枠を限定せずに**苦手な人にもかかわってみる**ことです。



施設内のリハビリルームが仕事場。利用者の方の状態に応じて、さまざまな器具を使ったり、手技によってリハビリテーションをさせていただいています。



一人ひとりの利用者さんの状態を情報共有するため、平日は毎日、ケアマネージャー、看護師、介護士、栄養士の方々とカンファレンス（会議）を行います。



リハビリは知識や技術が必須な一方、「この人の役に立ちたい」と心から思うことが何より大事だと痛感。自分の状態や考えはダイレクトに利用者さんに伝わってしまうので、どれだけ真剣に向き合えるかがこの仕事のキープポイントだと思っています。

意志が固まる 職種発見

浪人時代

二浪を遊び友達にせいにしてお金を断ち切る。親からも浪人を反対され予備校費と受験料をバイトで稼ぐことに。バイト先の警備会社の部長に予備校など受験の助言をもらったりお世話になった思い出、大学進学後もバイトを続ける。

大学時代

帝京大学文学部英文学科に入学。断絶していた友達に合格を祝ってくれ、支えてくれる人々の大切さを感じる。

就職活動

当時急成長していた金融会社に就職。

金融会社時代

営業はおもしろく、魅力的な支店長にお世話になったが、労働環境に疑問を感じ3年目に退職。

就職浪人時代

スノーボード中に背骨を圧迫骨折。半年間寝たきりの生活をする中で、医療の仕事に興味を持ち、友人から理学療法士の仕事を勧められる。

専門学校時代

理学療法士の専門学校に入学。職場見学で講師の先生のリハビリによって患者さんが日増しに回復する姿に感動。学校の紹介で現職に就く。

なるまでヒストリー

資格をもって人の体の機能を回復させる仕事
理学療法士の国家資格を取得してリハビリテーション業務に携わっている人のこと。資格取得には大学や専門学校で3年以上学び修了する必要がある。病院や老人保健施設、スポーツ施設などで働く。

鈴木さんは主に病気やケガなどで入院していた高齢者の方が、退院後、家庭生活に戻れるよう、運動機能向上のためのリハビリテーションを担当。入所者だけでなく通所の方のリハビリも行っている。

09

管理栄養士

和光堂株式会社
開発本部
中澤里紗さん(32歳)

10

理学療法士

介護老人保健施設・ゆうゆう
理学療法士
鈴木祥二さん(37歳)

保護者世代とこんなに変わった “就職活動”

マスコミなどでもここ数年は就活の厳しさを語るニュースばかり。

わが子のときはどうなるのか不安を覚える人も多いのでは？

そこで、現在の大学生の就活の流れと、保護者の時代と異なるポイントをおさえておきましょう！

大学3年
6月頃

“大学内キャリアガイダンス”

夏休み明けから本格始動する就活に向けて、就活の流れや心がけを指導する大学主催のガイダンスがスタート。なかには入学直後の1年次に行く大学もある。

大学3年
7月頃

“インターンシップ”

企業が学生を一定期間就業体験させてくれるのがインターンシップ。実際に実務が経験できるもの、事業立案やグループワークなど内容はさまざま。夏休みや12月の冬休みに1〜2週間実施する企業が多い。企業や仕事を具体的にイメージできるチャンス。

親の時代との違い！

3割位の学生が参加する、今や就活の主要イベント。希望企業でインターンをするためには早くからの情報収集が必要。

大学3年
10月頃

“就活サイトオープン”

「リクナビ」などの就職情報サイトがオープン。まずは会員登録し、情報の配信を申し込んだり、企業データベースで、志望職種や分野を検索することから会社研究をスタート。

親の時代との違い！

かつて無料で配られていた百科事典のような就職情報誌は姿を消し、インターネットがメインに。よってパソコンは必需品に。

大学3年
11月頃

“企業研究・先輩訪問”

学校やイベント会場などで「業界セミナー」や「就職セミナー」が実施され始め、会社説明会の予約も始まる。実際に企業に勤めるOB訪問などをして、志望候補企業の生の情報を収集。

親の時代との違い！

現在では「会社説明会解禁日」は存在せず。開催情報は随時発表、すぐ定員いっぱいとなるため、予約確保にもバファリーがかかる。

大学3年
2月頃

“エントリーシート提出”

選考試験の第一ステップに当たるのがエントリーシート。企業の定めたフォームに従って自己PRや志望動機、将来の希望などを記入しネット応募する。これをクリアしないと面接に進めない。

親の時代との違い！

親の時代にはなかったツール。ネットでの就活で応募が容易になって増える分、企業は面接の前にこのシートで絞り込んでいく。多くの企業に応募できる反面、書類でしかアピールできないもどかしさ。仕事観や自己分析を十分深めておく必要あり。

大学3年
3月頃

“面接・選考試験”

多くの企業が面接や選考をスタートする時期。早い学生では4月中に内々定が出始めるが、4月後半から5月前半がピーク。大手企業は6月頃には選考終了となるが、中堅以下は翌年まで続く。



リクルートワークス研究所
主任研究員／豊田義博氏
若年キャリアや労働市場の探索・
研究を担当。最新の著作に『就
活エリートは迷走』（ちくま新書）

企業が望むのは人とかかわりがきちんとできて、論理的に物事を考えられるかなど、現実社会で役立つ力です。それは就活攻略とは異なる力です。

大学生活を就活の最短距離を作るための時間ではなく、社会に出て本当に必要な力を身につける時間にできるよう、支えてあげてほしいです。

今の就活は、保護者世代では面接の場でやりとりされていたことがエントリーシートという最初の関門で試されるようになり、それが就活の最難関になっていきます。志望企業が納得できる将来ビジョンをプレゼンできる人が通過するのです。それをクリアし、大企業・有名企業に入社していく就活エリートたちの中には、入社後に、自分を見失ってしまう人が少なくありません。そういう人には、大学生活をエントリーシートを飾る経験作りに費やす傾向が強く見られます。

現実社会で役立つ力を
育める大学生活に